

晝夜惟念死時將至。羸子捨我五十餘年。庫藏諸物當如之何。公時窮子求索衣食。從色至色。從國至國。或有所得。或无所得。飢餓羸瘦。體生瘡痏。漸次經歷到父住城。宿齋食轉遂至父舍。小時長者於其門內施大寶懷。處處不虛。眷屬圍繞。諸人侍衛。或有計策。金銀寶物。出內財產。注記參詣。窮子見父。蒙貴尊嚴。謂是國王。若是三等。驚怖自懼。何故至此。瘦弱念言。我若久住。或見逼迫。猶恥使你恩惟是已。馳走而去。倘聞貧窮。欲往借作長者。是時在歸子座。遇見其子。默而識之。即教使者追捉持來。窮子驚喚。迷闇躊躇。是人執我。必當見殺。何用衣食使我至此。長者知子愚癡狡劣。不信我言。不信是父。即以方便。更遣餘人眇目總頸。元感德者。決可説之。玄富相處。除諸真種。倍與汝償。窮子聞之歡喜。隨來。除難冀誠。淨諸身舍。長者在牀。常見其子念子恩。尚樂為新事。於是長者着弊垢衣。軟除裏器。住到子所。方便附近。語令勤作。既盡波價。并盡身面。飲食充足。薦席厚暖。如是苦言。汝當勸作。又以冥語。若如我子。長者有曾八出入。經二十年。執作家事。猶復門外。坐宿草庵。自食貪事。我凡此物。父知子心。漸已曠大。欲與財物。即取瓶詰。國王大臣。刹利居士。於此大眾。說是我子。捨我他行。經五十歲。自見子來。已三十年。昔於某城。而失是子。周行求索。遂來至此。凡我所有。舍宅人民。悉以付之。恣其所用。子念背負志意下劣。今於父所。大獲珍寶。并及舍宅。一切財物。甚大歡喜。得未曾有。佛立如是。知我樂小。未曾說言。汝等作佛。而說我等得諸。元漏成就。小乘聲聞弟子。佛勸我寺說。眾上道脩習此者。當得成佛。我承佛教。為大菩薩。以諸因緣。種種辟喻。若干言辭。說凡上道。諸佛子等。從我聞法。日夜思惟。精勤備。是時諸佛。即授其記。

卷末

太子生而能言。且有聖智。及  
天皇特教。蒙令店南上殿。  
東道習釋教於高麗僧惠慈。  
祕奧之文。算不貫綜矣。是  
定即便奏天皇曰。後代帝不  
多可短祚。非弗帝力。何敢救護。  
顧述一精舍於熊寢村。終極之  
佛事。護代。皇位。甲戌九年。  
辛巳太子薨于班場。言具將  
定。即便奏天皇。而奏。天子。勅曰。勅曰。  
皇子。皇子。向右子病。其勅曰。朕聞  
左子。寢疾將遷。他東每加慰。  
同言。與涕並痛。引氣。半具難。  
再遇。君有。而。朕。將。隨。之。左子。  
葬天皇曰。旨。奉。以。宿。恩。忝。芳。皇。  
門。致。祿。之。德。冥。天。因。極。況。非。具。詔。  
乙巳月丙午日。是日。湘。字。生。得。畫。  
「此。焉。恩。亦。無。而。負。但。欲。」。熊。  
寢。精。舍。獻。朝。庫。以。左。寺。是。只。  
保。護。皇。御。之。故。也。又。私。語。皇。子。  
曰。善。前。皇子。是。我。姑。男。滿。朝。  
羣。臣。濟。之。中。汝。銜。勅。命。未。而。  
芳。布。以。山。精。金。又。付。滿。汝。將。令。汝。  
再。拜。謹。承。其。旨。只。以。而。報。還。奏。天。  
皇。之。且。悲。且。喜。欲。趁。熊。寢。精。  
舍。以。而。大。伽。藍。矣。推。古。天。皇。崩。舒。  
明天。皇。立。天。宣。者。即。日。村。皇。子。也。  
特。人。以。爲。皇。子。信。愛。上。宮。太。子。  
遺。記。之。故。自。傳。佛。力。及。帝。位。  
天。皇。踐。祚。之初。百。河。河。側。釋。勝。地。  
移。精。舍。号。日。百。流。大。寺。復。以。封。色。  
寺。中。矣。余。特。造。寺。司。等。多。供。能。  
樹。社。神。憲。祭。放。火。燒。寺。天。匱。  
移。向。之。間。定。慢。膳。奉。帝。遂。崩。于。  
百。河。宮。矣。及。崩。寺。付。属。皇。祖。  
妙。法。蓮。華。經。卷。第。二。  
妙。法。蓮。華。經。卷。第。三。

卷首

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

日本と中国の美術——16世紀までの名品から——

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.7

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成七年三月二十五日発行

©1995, Museum of the Imperial Collections